

チョウを主とした昆虫採集を始めた少年時代は、目にするどのチョウも新鮮でことさらベニシジミを捕まえたときには、このような美しいチョウが身近にいることに驚き、ミョウガ畑に入り込んでネットインしたサトキマダラヒカゲの目玉模様や裏面の複雑なデザインに自然が示してくれる芸術性に度肝を抜かれた。昆虫図鑑を手元に眺めるようになると、色がきれいで精悍なタテハチョウ科のチョウに特に惹かれるようになり、セセリチョウの間ではアオバセセリ以外にはあまりに地味なチョウが多く目もくれなくなっていた。ところが、与那国島で出会ったチョウ愛好家の塩満さんが注力する種がシジミチョウ科とセセリチョウ科で、石垣島での主狙いがオオシロモンセセリだと聞いて以来、オオシロモンセセリとはどんなチョウだろうかとがぜん興味がわいた。1996年にそれらしき飛翔個体を目にしたが、何も証拠記録を残せず、2017年の4月になって初めて沖縄の伊豆味で本種の撮影に成功したが、翅表などの記録は簡単には撮らせてくれていない。

Oct. 14, 1996：石垣島

車を止めた右奥の畑地沿いにセンダングサが花をつけている。塩満さんは直ちにアスファルト本道路沿いを探索しはじめたが、筆者は畑地に踏み込んでみる。いきなり中型で後翅の白紋が明らかなセセリチョウがブッシュ沿いに跳ねるように低い高度で飛び出てそのまま前方へと姿を消す。畑地の行き止まりまで探したが結局見つからず。西表島で採ったコウトウシロシタセセリとは明らかに違うあの白紋はオオシロモンセセリに違いない。塩満さんに話すもすでに後の祭り。

Apr. 26, 2017：沖縄伊豆味

雨が来ないうちに多くのチョウとの出会いが期待できる伊豆味地区へと移動。幸いにも青空も見える状況となり、車を止めた広場のすぐそばでいきなりアオタテハモドキのメス個体をみる。シロノセンダングサが多く茂る一角では、アオタテハモドキのオスや、モンキアゲハが小さな青紫の花で蜜を求め、木陰となった路傍のシロノセンダングサに、筆者にとっては初記録となるオオシロモンセセリがやってくる。新鮮度の低い夏型のタテハモドキや、緑色の輝きが美しいナナホシオオキンカメムシもみられる。アオタテハモドキの新鮮オス個体や、翅の傷みがあわれなタテハモドキがシロノセンダングサの花蜜を楽しみ、イシガケチョウが吸蜜するシーンもみる。

